

安全衛生報誌

安衛委 No144
平成27年4月30日
安全衛生推進委員会

平成二十七年年度 安全大会

今年の安全大会は、四月二四日大越公民館で、開催されました。

社長より、建設業の死亡災害の六割が三大災害（墜落・転落災害・建設機械等災害、倒壊・崩壊）で起きているので、リスクアセスメントを実施し死傷者を出さないように取り組んでいただきたい。

昨年度の労働災害は一件で、4日以上の死傷病災害には至らなかつたが、一歩間違えれば重大事故になり得たかも知れない事故であり一寸した不注意から起きていますので、各自、より一層注意をして事故防止をしていただきたい。今月社員が病死により他界されましたが、前大会で話をしたように、健康診断を全員が受診し、その結果要精検等がある方は再度医師の個別診断を受けたにもかかわらず早期発見早期治療出来ず命を落と



すこともあるので、今年は必ず再受診を受けていただきたい。皆さんの健康は会社の財産であり宝物です。健康を第一に考え今年一年無事故無災害でお願いしたいと挨拶がありました。勤続表彰で三十年会田貞二さん、鈴木ユキさん、二十年坪井英樹さんが永年に渡り会社に貢献してい

いただきました。安全標語では、最てから近づき、管理者は近づけては優秀賞に富塚正司さんの「気を抜ならないことになっている。（安全くな！少しの油断が事故の元初心配慮義務）うっかり災害を起こさないに戻って安全確認」優秀賞に武田和樹さんの「災害は慣れと油断と過信から基本忘れず安全作業」国分千代子さんの「安全は基本作業の積み重ね決まりを守ってゼロ災害」が選ばれました。無事故無違反表彰者は二十年佐藤昭男さん、渡辺一夫さんが受賞しました。現場体験談では、近内隆政さんが玉掛けの際手袋が挟まって吊られそうになったり、バックホウで鉄板を吊り、アームを上げたまま走行して電線を切断しそうになったり、法面が崩壊したり、重機が路肩によりすぎて転倒しそうになったり、季節によつて現場状況で起こる危険要因も違うので、経験を使用する。積んで対策し事故を起こさないようになりたいと話がありました。講演では、福島産業保健総合支援センターで産業保健相談員の宗像正行様が、「職場の健康と快適職場について」と題して資料を基に説明をして下さいました。災害にあつた方々で高齢者は、二倍から三倍の確率で災害に遭われています。重機に近づくとときは合図をし

人間関係を良くするには、何とでも対話思いやりで対話の機会を多く持ち率先して挨拶することです。

は、荷を吊つたら離れること、荷のそばで押したり引いたりしても、作業能率は落ちないので、荷を吊つたら離れないから事故になる。建設現場では平坦な場所が無いいため、常に車の輪留めを習慣化する。梯子を使用するときは、75度に設置し出来ない時は固定するか押さえてもらつて使用する。

